

論文内容要旨

大規模災害時における小児への
歯科保健医療支援体制構築に関する研究

神奈川歯科大学大学院歯学研究科

口腔機能成育歯科学講座 大久保 孝一郎

(指導：木本茂成教授)

論文内容要旨

大規模災害時においては、避難生活を送る地域住民や避難所で生活する人々に口腔内状況の悪化や義歯紛失・不適合といった問題が発生することが阪神・淡路大震災以降、数多く報告されている。高齢者においては、急激な環境の変化や避難生活の長期化が基礎疾患の憎悪を招き、劣悪な口腔内環境は誤嚥性肺炎のリスクを増大させる要因と考えられている。一方、高齢者に限らず小児も災害時要援護者であり、歯科保健医療において対策が検討されて然るべきであるが、災害時要援護者に関する研究・報告の中で、とりわけ小児に対する歯科保健医療支援を示したものは少ない。そこで本研究は、大規模災害時の歯科保健医療支援体制構築に向けた小児への歯科保健医療支援の指針（案）を示すために全国 29 大学歯学部及び歯科大学の小児歯科学講座に対して、東日本大震災時の歯科保健医療に関するアンケート調査を行い、回答のあった 25 講座（回答率 86%）についてその内容を分析・検討した。

その結果、回答のあった 25 講座中、12 講座（48%）が「東日本大震災の診療に対する影響があった」と回答し、「計画停電の影響の有無」との関係进行分析したところ、有意な関係が認められた。しかしながら「東日本大震災における歯科保健医療活動参加の有無」、「東日本大震災における被災地への口腔ケア用品提供の有無」との関連は認められなかった。このことは全国の多くの小児歯科学講座が、東日本大震災による被災の有無に関係なく、被災地支援に携わっていたことを表していると考えられる。また「医療従事者からみた東日本大震災の影響としての患児の口腔内の変化の有無」については、「東日本大震災の診療に対する影響があった」と回答した 12 講座中、1 講座のみが変化ありと答えた。具体的には「齲蝕の増加」、「咬爪癖が増えた」、「卒乳が遅れた」との回答が挙げられた。本アンケートより、各々の講座が東日本大震災時に可能な限り被災地に対して各種歯科保健医療支援活動を行っていた事が分かった。しかし、講座ごとに支援の内容や方法に関する判断が委ねられているケースも明らかになった。

今回我々は、大規模災害時の歯科保健医療支援体制構築に向け、大学小児歯科学講座がその特性を生かし、大規模災害時の子どもの歯科保健医療支援・活動の拠点として機能する事を想定し、平時ならびに災害時における大学小児歯科学講座の位置付を示したフローチャートならびに全大学小児歯科学講座が共通して運用可能な災害時歯科保健医療支援指針の案（災害時における口腔保健指導方法・応急処置歯科を通じた子どもの精神的フォロー、災害時の要支援内容の発信手段など）を作成した。我々が日々の臨床で行っている子どもたちの「口腔機能の育成」を災害時に停滞させないためにも、今後本案をより実践的に運用できるようさらなる細部の検討が必要不可欠であると示唆された。